

つぎつぎと無実の新証拠！ 有罪判決の誤りは明らか！ 再審開始を！

狭山事件の再審を求める市民集会在10月31日、東京・日比谷野外音楽堂でひらかれ、全国各地から3千人が参加した。

組坂繁之・中央執行委員長は「石川さん宅から発見された万年筆はねつ造であることがわかり、この段階

で強力な運動を展開して第3次再審闘争を実現して石川さんの無実を勝ち取るう」とあいさつした。つづ



再審を訴える石川一雄さん、早智子さん



和歌山のデモ隊



仲間と石川さんが無実を訴えた

いて各臨席者からの応援メッセージ、弁護団報告、連帯のアピールとともに訴えてきた。その後、石川一雄さん・石川早智子さんから「脅迫状の筆跡を有罪証拠の主軸だとしていたが、99・9%別人の筆跡であることを明らかにしている。また、万年筆が被害者の物ではないことで、寺尾判決の有罪証拠がつぎつぎ崩れている。これを機にみえない手錠をはずすために狭山

◆各市町村交渉

伊都振興局交渉 (9/12)

藤井静雄・紀北ブロック長から「伊都地方で人権3法について、意識を高めるような成果がだせるよう交渉を」とあいさつした。

「推進法」への振興局の考え方

業者(地場産業)の活性化・育成をはかるための対策について議論された。最後に橋本・伏原・中飯降・笠田東支部の支部要求について協議した。

■申本町(9/28)

「部落差別解消推進法」(以下「推進法」)制定にともない、町における部落差別

までをデモ行進し、石川さんの無実と再審開始を訴えた。

別の実態調査、意識調査の実施、条例の制定を強く求めた。町は「県の実施する意識調査に協力してきた。条例については、各市町村の動向をみながら検討する」との回答があり、部落差別の現状をふまえ人権行政確立に向けたとりくみを要求した。

■紀の川市交渉(10/10)

那賀・古和田・西井阪支部を代表して、金田光央・那賀地方協議会議長、県連を代表して飯田敬文・副執行委員長から「部落差別の解消・人権問題の解決に向けた役割は大変大きい」とあいさつがあり、中村慎司・市長から「差別はインターネットや差別問い合わせなど、さまざま。一緒になってがんばっていききたい」とあいさつされた。交渉では、市としての考え方や同和向け改良・公共住宅についての考え方、差別事件へのとりくみについて協議された。

厚労省交渉 同額確保を努力

厚生労働省交渉(10/5)

に、平見良太・生活福祉運動部長と事務局が参加した。山崎鈴子・中央生活福祉

運動部長のあいさつのもと厚生労働省社会・援護局地域福祉課の竹垣守課長から「同和問題の解決は基本的人権の尊重が大切で、今後も隣保館の整備・運営に努める。来年度の予算要求については、前年度のマイナス10%減というのが数年つづいているが、引きつづき同額確保に向けて努力する。地域共生社会の実現に向け、とりくんでいく。ま



紀の川市の交渉の様子

た、隣保館は地域福祉の重要な社会福祉資源と考えている」とのあいさつをうけ、交渉にすすんだ。主に隣保館に関する交渉内容で、東京都連から東京は地区指定されておらず、隣保館がない。2区18市の未指定地区があるが、5市の部落を動画撮影して部落探訪という形でネットにアップしている。未指定地区でも相談事業など隣保事業ができるようにしてほしいと要求した。また、人権研修についても「推進法」ができたという内容では意味がなく、生活保護率の高さなどの生活課題や実態に差別があるという問題を周知してほしいと要求した。さらに、人権研修のプログラムの有無を問うと「ない」という回答で山崎部長から「トツプに理解がないとなにもすすまない。来年の交渉でプログラムの作成を要求項目に入れる」ことを申し伝えた。

映画「獄友」、 上映会ひろく

狭山事件のドキュメンタリー映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」を撮影した金聖雄監督の新作映画「獄友」の上映会を10月17日、和歌山県民文化会館小ホールでひらき、和歌山県共闘会議・実行委員会から137人が来場した。

この映画は石川さんをはじめ、足利事件の菅家利和さん、布川事件の桜井昌司さん、杉山卓男さん、袴田

事件の袴田巖さん、姉の秀子さんたちの闘いと連けいがか描かれている。えん罪被害者となった彼ら



映画について説明する池田清郎・狭山闘争本部長

は、身に覚えのない取り調べをうけ、してもいない犯罪について自白をしてい



和歌山市内から駆けつけた参加者

る。人生の大半を獄中で過ごした姿が描かれた映画である。

文化の窓

「大人の発達障害」

アスペルガー症候群、AD/HD、自閉症が楽になる本
著者：備瀬哲弘、出版社：集英社文庫、発行：2015年12月25日

「あの人が変わった人、空気読めないね」という会話を聞いたことはありませんか？



発達障がいをもつ人は、自身がそうであるかの診断を受けていない人も多く、なんとなく生きにくい、話がかみ合わない、仕事を転々とするなど、さまざまな二次障がいがある。発達障がいを知ることで、「変わっている」ようにみえるのか、「空気が読めない」のかがわかる必読の一冊。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073-473-2301